

刀 匠 知

↓ 鉄 家 井





本当に五百円玉10枚でいいのかい？



いいよお…私舐めるのうまいんだ…



公園でシロシロとこの娘の体を見ていたらねっとりとした回調で突然話かけてきた

まるで心を見透かすかのように俺の欲望に答え、体売ってきた公園暮らしの俺には大金だったがまたとないチャンスなので金を払った



うわぁ…なんかネトネトしててすごいニオイするよお

ムク



「ハーン」
「ヨル」
「ク」
「ミ」
「たい」

金を払うや否や少女は俺の怒張したそれを興味津々に取り出した



過去に風俗でやられた時より
何倍も気持ちよかった
舌使いが素人とは思えない
俺の弱い所が
わかっているかのように
的確に舐めてくる

ゴク
ゴク
ゴク

♡舌使い♡

じゅぽ♡

うおおおっ
お嬢ちゃんっ
もう出るよっ！

ズン
ぽ♡

♡舌使い♡

♡舌使い♡



うひひっ！おじさんのセーエキ
変な味だな…

少女は口周りの精液を満面の笑みで舐め取った

さつき俺のチンポを臭いと言ったが
この少女も体を洗つたり歯磨きをしていないのか
臭いでは負けていないじゃないか
精液と混ざった口臭がすごい臭いになっているぞ



次に少女は股を開いた
スパッツに予め穴が開いてあった
とんだ淫乱娘だ
それにしてもものすごい臭いだ…

スパッツでムレていたのか
汗の臭いが強い
獣のような臭いもする

ビクッ

ビクッ

ムフムフ

しかし俺は臭いなどお構いなしに
彼女の股間に
いきり立ったソレを添える

フ…

フ…

むち…

むしるこの臭いが何か
俺を興奮させてくる…
俺の臭いを新たに刷り込んでやる

一心不乱に少女を突きまくった
彼女のお腹が盛り上がるほどに
思いつきりピストンした
えげつない音が
鳴り響いた

ゴゴッ
ゴゴッ
ゴゴッ
ゴゴッ
ゴゴッ

少女はこれほどまで
激しく突かれてるのに
快感に溺れた顔をして
上目遣いで俺を見た

獣のような
臭いの中。
獣のように
腰を振った

ゴゴッ
ゴゴッ
ゴゴッ
ゴゴッ
ゴゴッ
ゴゴッ

残っていた精液を全部搾り出し
少女の中にもちまけた

あたりになんともいえない
臭いがたちこめた

それからの記憶が
何故か曖昧なのだが
いつかまた会える時まで
また小銭を稼いでいようと思う

ガッ
グッ

ド
ド

ハッ
ハッ

ひゅ
ひゅ

ん
ん